

生活中的外来语

1. 知情同意原则

生活在日本，想必最为令人挂心和思虑的，就是生病就医这件事情了吧。要是有一天突然生病，医生说“最好做手术”，那您会怎么办呢？就算做出这种诊断的是信得过的医生，您是不是也会感到不安，并且在心里问：“真的非手术不可吗？”“就没有别的治疗方法了吗？”

作为患者，一般都是在医院看病及接受检查，并且根据医生的诊断结果来制定治疗方案的。此时，医生向患者详细地告知检查及治疗过程，消除患者内心的疑问，从而让患者理解、同意并接受检查方法及治疗方案，这就是所谓的“知情同意”原则（意即在对方做出说明的基础上表示赞同）。只有在“医生作出解释，患者表示理解”的前提下，才能达成“一致协议”；也只有具备了这三项条件，“知情同意”的概念才能成立。同时，此处所说的“一致协议”，指的是医患双方意见相同这一层意思。如果患者没有完全理解医生的意图，因而未表示出“一切都委托给医生”这种态度时；或者患者几乎是在医生的劝解下同意其检查或治疗方案的话，都不能说是达成了“协议”。反过来，要是患者已经完全领会了医生的意图，但却拒绝接受医生制定的治疗方案，同时医生也表示接受患者的主张，那么这也是一种“协议”。“知情同意”这个概念，原本诞生于个人主义观念比较盛行的美国，近十年来，也慢慢渗透到了日本的医疗界。这个概念诞生的背景，据说正是为了反思从前医生意味着某种权威性的存在，高高在上，掌握着患者所有医治

暮らしの中の外来語

1. インフォームドコンセント

日本で暮らす中で、一番の気がかりは、やはり病気になった時のことでしよう。ある日、突然病気を患ったら、そして、主治医から「手術したほうがいい。」と言われたら、あなたはどうしますか。たとえ信頼している医師から言われたことばであっても、「どうしても手術しなければならないのだろうか」「他の治療法はないのだろうか」と不安や疑問が湧いてくるでしょう。

わたし 私たちは、病院で診察や検査を受け、医師の診断結果に基づいて治療を受けます。この時、医師から検査や治療について、十分に説明を受けて、疑問点などを解消し、心から納得してその検査や治療を受けることに同意することを「インフォームドコンセント（説明を受けた上で同意すること）」と言います。「医師の説明、患者の理解」、それらを条件にした「両者の合意」、これらが全部揃ってはじめて成立する概念です。また、ここでの合意とは「意見の一一致」という意味です。患者が医師に「すべてお任せします。」といって十分理解しようとしない態度や、医師が半ば患者を説得して同意させるような態度は、合意とはいえません。逆に、患者が医師の説明を十分理解した上で、治療方針を拒否し、医師がこれを受け入れた場合は、合意が成立します。元々は個人主義の意識が高いアメリカで誕生した考え方だそうです。が、ここ10年ほどの間に日本でも浸透し

权的弊病，同时也为了追求最大限度地尊重患者的选择权及自由意志这一医疗理念。

另外，近来围绕

医疗的诉讼案出现了增多的趋势，因此，从医疗方面来说，也希望能够通过事前达成“知情同意”，来回避事后被告上法庭的尴尬局面。

比方说，您在接受某个重要检查或手术的时候，一定有过被院方要求签字的经历吧。而签字这一行为，正是对知情同意原则的实质性履行。因此，若不太理解医生所作的说明，最好不要轻易签字，而是直率地提出自己的疑问。不够了解日本的医疗情况，因此担心无法与医生进行沟通的人，有必要在可以依靠的家人陪伴下听取医生进行告知。

专家认为，为了实现知情同意的原则，作为患者一方应该询问主治医生的问题，主要有以下几个方面：

1. 做过什么样的检查，检查结果如何。
2. 病名是什么，病情的进展情况如何。
3. 主治医生所推荐的治疗方案是怎样的，有着怎样的长处与短处。
4. 有没有其它的治疗方法，其长处与短处又是怎样的。
5. 假如不做治疗，病情将会怎么发展。

由于在日本会说中文的医生和护士很少，因此，大多数人都是通过支援者或家人做翻译，以求与医生达成交流，从而实现知情同意的。我们也曾经听说过，有的人甚至让未成年



てきています。その背景には、かつて医師が権威ある存在として、患者より上位に立ち、治療の主導権を握ってきたことへの反省や、患者の選択権や自由意志を最大限尊重しようとする考え方があるそうです。また、最近医療裁判が増える傾向にあり、医師側には医療トラブルを避けたいという思惑もあるようです。

たとえば、あなたは重要な検査や手術を受ける際、同意書にサインを求められた経験はありませんか。サインはインフォームドコンセントを実践する行為です。説明がよくわからない時は、安易にサインしないで、率直に質問することが大切です。日本の医療事情等に不慣れなため、医師とのやりとりに不安を感じる方は、頼れる親族と一緒に説明を聞くことも必要でしょう。

専門家は、インフォームドコンセントをもとめて主治医に聞くべき事柄として、次の点を挙げています。

1. どんな検査をして、その結果はどうだったか。
2. 病名は何で、病気の進行状況はどうか。
3. 主治医として勧める治療法はどんなもので、そのメリットとデメリットは何か。
4. その他に考えられる治療法と、そのメリット、デメリットは何か。
5. 仮に、治療を受けないとしたらどうなるのか

日本では中國語のできる医師や看護師が多くないため、多くのみなさんは、支援者

的孩子或孙子充当翻译。我们认为，在医生告知患者检查结果及治疗方案这样的关键时刻，还是应该请对于知情同意原则的重要性有着一定认识，且值得信赖的人来翻译为佳。

2. 第二意見

那么，在听取医生告知以后，对于缺乏医疗知识的患者及其家人来说，有时候会感到难以抉择是否接受检查或治疗。此时，作为参考，寻求其他专门医生的见解，就是所谓的听取“第二意见”（第二诊断）。这一行为，并非意味着将主治医生换掉，而是指在与主治医生保持良好关系的前提下，听一听其他医生的意见。据说在第二意见广为普及的美国，越来越多的癌症患者，往往在听取两名以上医生的意见之后，最终由自己作出究竟是采取手术切除，还是采取化疗的选择。

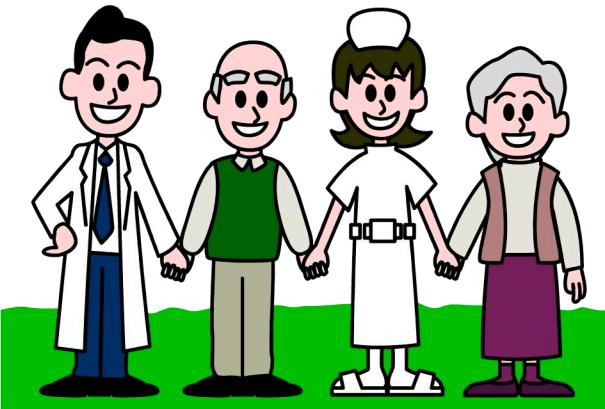
在日本，近来由于围绕医疗过失的纠纷不断增多，再加上患者自身的意识不断提高，因此对于第二意见的理解也渐渐深入。但是，要征求到有价值的第二意见，还需要主治医生提供相关的资料（检查数据及诊断结果）。这意味着将医疗信息公开，因此也必然会牵扯到对医生的能力进行评价这个问题。从整体来看，与美国相比，信息公开程度比较后进的日本，医院方面对于第二意见的理解及合作体制，还是不够全面和完善的。此外，患者本身也存在着难以向医生张口，提出要求听取第二意见的心理。但是可以认为，日本的医疗界今后将毫无疑问地朝着越来越重视第二意见的方向发展。

や家族の通訳を通して、医師にインフォームドコンセントを求ることになります。未成年の子供や孫に通訳を頼むケースもあると聞きますが、検査結果や治療法についての説明など重要な局面では、インフォームドコンセントの重要性を認識した、信頼できる通訳を頼むことをお勧めします。

2. セカンドオピニオン

さて、主治医から説明は受けたけれど、医療知識の乏しい患者や家族としては、なかなか治療法が決められない場合があります。そんな時、参考までに別の専門医の意見を聞くことを「セカンドオピニオン（第二の診断）」と言います。それは 医師を代えるという意味ではありません。主治医との良好な関係を保ちながら、別の医師の意見を聞くことです。セカンドオピニオンの先進国アメリカでは、ガンを手術で切除するか、放射線治療を行なうかというような判断は、複数の医師の意見を聞いた上で、患者自身が判断することが多くなっているそうです。

日本でも、近年医療過誤をめぐるトラブルや患者の意識の高まりを受けて、セカンドオピニオンへの理解が徐々に広がりつつあるそうです。しかし、意味のあるセカンドオピニオンを行うためには、主治医に資料（検査データや診断結果）を提供してもらわなくてはなりません。それは医療情報を公開し、必然的に医師の能力を評価することになります。アメリカに比べて情報公開の遅れている日本では、全体的に見て、病院側の理解や協力体制が十分整



至于如何才能巧妙地获得第二意见，专家认为最好做到以下几点：

1. 在征求第二意见之前，向最了解自己病情的主治医生确认不明白的地方。
2. 务必在治疗开始之前征求第二意见。
3. 征求第二意见时，往往不知道去哪家医院好，因此，最好请主治医生给自己开介绍信。或是请主治医生提供诊断结果或相关资料。
4. 向主治医生汇报征求到的第二意见，并制定今后的治疗方案。

要是选择在给予自己第二意见的医院接受治疗的话，务必向主治医生汇报。因为与医生保持良好的关系，是极其重要的。

随着身体变“老”，人人都要与疾病进行搏斗。我们渴望医疗机构整备出一个好的环境，让那些在用日语看病，以及收集相关医疗信息方面时常感到困难的归国者们，能够安安心心地接受治疗。（H）

っているわけではありません。また、患者自身としても、主治医にセカンドオピニオンの希望をなかなか切り出しにくいという心理もあります。しかし、今後は日本の医療界が、次第にセカンドオピニオンを重視する方向に進んでいくことは間違いないだろうと言われています。

専門家は、セカンドオピニオンを上手に得るポイントについて 次のように述べています。

1. セカンドオピニオンをとる前に、病状を一番よく知っている主治医に疑問点を確認しておく。
2. セカンドオピニオンは、必ず治療をはじめる前に受ける。
3. セカンドオピニオンを聞く場合は、どの病院に行けばいいかわからないことが多いので、主治医に紹介状を書いてもらう。また診断結果や資料を提供してくれるよう依頼する。
4. セカンドオピニオンの結果はきちんと主治医に報告し、その後の治療方針を決める。
セカンドオピニオンを受けた先の病院での治療を選択しようと思った場合も、主治医には必ず報告し、良好な関係を維持しておくことが大切です。

「老い」が深まっていくと、人は誰でも病気と闘っていかなければなりません。日本語でのやりとりや医療情報を得る上で、困難を感じることの多い帰国者のみなさんのが、安心して治療が受けられるような環境が整ってほしいと思います。（H）